

東京大学東洋文化研究所
附属東洋学研究情報センター

平成13年度事業報告

東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日
所在地 〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
電 話 03-5841-5839
FAX 03-5841-5898
URL <http://www.info.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

現状と課題（平成 13 年度）

はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999 年 4 月 1 日に新設された。研究情報センターは、「アジア資料学」という研究分野を確立することを目的とし、具体的には、アジア研究のための資料を組織的に収集・蓄積しデータベース化すること、および資料そのものの性格について研究することを任務としている。センターの研究分野は造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書もんじよ、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教官スタッフは、造形資料学分野担当の教授・助教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・助教授各 1 に、それらを補佐する助手 1、さらにセンター教官と協力してプロジェクトを推進する客員教授 1 からなる。

平成 13 年度は、前年度に引き続いて、朝鮮・韓国の族譜など資料の収集・蓄積を行うとともに、インド・イスラーム史跡資料、東アジア族譜、中国絵画デジタル・アーカイヴ、倉石文庫漢籍、内蒙古出土学術資料の重点プロジェクトを中心にした各種のデータベース化事業を実施し、一部をセンターのウェブサイト上で公開した。また、重点プロジェクトと試行プロジェクト、そして文部科学省科研費などで進める一般プロジェクトなどの各研究において、データベース化事業の推進と平行して、資料そのものの性格を検討するため討論や意見交換を行うなど、センターの目的であるアジア資料学の構築を目指して事業を展開した。また、旧センターから引き継いだ漢籍整理長期研修を実施する他、ニューズレター『明日の東

洋学』を発行するとともに、新たに『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。全国文献・情報センター長会議をはじめ、学内外の関係機関との交流にも努めた。

A 人員・施設

1. 教職員

研究情報センター長	教授（併任）	原 洋之介
研究情報センター主任	教授	中里 成章
	教授	宮 寫 博史
	助教授	板倉 聖哲
	助手	大田 省一
	客員教授	井手誠之輔
業務掛	掛長	佐々木郁子

2. 施設

現在面積

事務室	64 平方米
作業室 1	24 〃
作業室 2	48 〃

計 136 平方米

B 本年度実施状況

1. 資料の収集・蓄積

平成13年度の受入数は、図書5冊（和漢書）、新聞の現物9種（継続）である（受入新聞一覧については14頁を参照されたい）。また朝鮮・韓国の族譜を325点購入した。

図 書		マイクロフィルム	
和漢書	15,373 冊	ネ ガ	986 リール
洋 書	792 冊	ポ ジ	3,522 リール
計	16,165 冊	計	4,508 リール

2. デジタル・アーカイヴ

データベース・プロジェクトの進行状況は次の通りである。ウェブ上で公開してあるものに (☆)、科研費が付いているものに (※) を付した。

(a) 重点プロジェクト

(1) インド・イスラーム史跡資料データベース (☆)

新たに、約 2200 枚のフィルム(6×9 サイズおよび 6×6 サイズ)をデジタル化した。地方のイスラーム建築の写真に関しては、試験公開中のホーム・ページに付加した。デリーの写真に関しては、新たに検索ページを作成し、ホーム・ページとリンクさせた。今年度中に、英語版を公開する。フィルムの保存に関しては、紙の包材に改め、防塵温湿度収納庫に保存をする事を決めた。

(2) 東アジア族譜データベース

今年度も朝鮮半島の族譜を中心にしながら、他の地域 (ベトナム・琉球) の族譜も含めて資料の収集を進めるとともに、朝鮮族譜のデータベース作りを行った。データベース作成では、文献情報の補充を行うとともに、画像情報の入力の一部完成させた。さらに朝鮮族譜の参考資料として、他資料、特に量案資料の入力作業も進めた。平成 14 年度には公開の予定である。

(3) 中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト (※)

東洋文化研究所が長年にわたって収集してきた中国絵画の焼付写真 20 万点のデータベースを作成する。今年度は『中国絵画総合図録』正編部分の修正を完成し、イントラネットで公開する。

(4) 倉石文庫漢籍のデータベース作成

倉石文庫の漢籍は、全部で約 4300 部あり、a) データシート作成、b) 入力、c) 校正という 3 段階の手順で整理するが、平成 12 年度においては以下の作業を完了した。

経部：c 段階完了。データを Web サイトで試験中。

史部：c 段階完了、データを Web サイトで試験中。

子部：c 段階完了、データを Web サイトで試験中。

集部：a 段階完了、b 段階未着手、c 段階未着手

全体量の四分の三程度の作業量を終えたものと理解している。叢書を中心とする残りはもう一年の作業でほぼ終了できるものと、考えている。

(5) 内蒙古出土学術資料のデータベース化

オロン・スム出土資料の瓦・瓦器・陶器・鉄器・石器など 1866 点および百霊廟凹地墳墓出土資料 45 点については今年度画像とデータの入力作業を終了。オロン・スム出土の骨ダンボール 4 箱、内蒙古各地採集資料の石器・土器・セン・陶器約 80 箱は未整理で、骨および石器についてはそれぞれの専門家にみていただく必要がある。

(b) 試行プロジェクト

(1) 東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化

平成 13 年度は、第 2 年度にあたるが、国立情報学研究所と東京大学総合図書館のシステムの変更にともない、前年度で入力したデータのフォーマットを一部修正する必要が生じ、そのデータ修正にかなりの作業量を消費した。

その後、新フォーマットによるデータ入力を進め、子データも含めて総計約 2300 件のうち、2 月末現在の進展から考えて 3 月末までには計約 1200 件を処理することが可能である。

来年度一年間で、基本的に入力を終えることができると思われるが、その後、データ内容のアップデートなどの処理が残るかと予想される。

(2) 在外日本企業作成資料のデータベース化

本研究所と経済学部とが共同でおこなっている在外日本企業作成資料の整理については、本研究所がアジア地域における在外日本企業作成資料を、また経済学部が日本を中心とした企業作成資料の整理を進めている。この過程で、昨年独立行政法人化した、国立公文書館が近い将来にこの資料群の移管収蔵を希望していることもあり、研究者の利用に供するために、とりわけ急がれる整理作業であると考えている。

他方、この在外日本企業作成資料のデータベース化作業は、昨年 11 月にホームページ上で、第 1 年度 200 万件の原資料のイメージ公開が開始された「アジア歴史資料センター」の資料データベース化 (<http://www.jacar.go.jp>) とも資料それ自体また整理・目録化の基本的な考え方で共通するところがあり、将来的にはこのデータベース化のモデルとの共通利用も視野にいれたデータベース化作業も考えられる必要がある。

以上の状況のなかで、データベース化は、現在目録データベースをつくる作業の一環としての入力をおこなっており、会社名・人名・営業項目名・資料分野別分類・統計項目、時期別分類など、今後検索ドライブをつけることによって検索

がおこなわれることに向けて、キーワードの配置を考慮しながら、目録をとる作業を進めている。今年度は、このような内外の動きの中で試行的に精粗に幅をもたせながら、100箱程度を開き、30箱程度を整理した。

(c) 一般プロジェクト

(1) 建築・美術資料の構成・分析プロジェクト

インド調査団が撮影した1960年代の写真を、エクセルを用いて、都市別、建築別、写真種類、写真撮影方向等で整理した。可能な限りそれらの都市図、建築物の平面図を収集し、リライトした。また、デリー調査団の収集した史料、インド考古局の図面および写真を整理してファイリングした。

(2) 造形資料データベース化プロジェクト

今年度は、画像データベースの基礎となる写真資料（焼付及びスライド）の整理を終え、画像公開に向けてサンプル版を作成した。今後、各所蔵者・機関に理解を得て、順次作成した画像を一般公開していく。

(3) 江戸時代『左伝』刻本データベースの構築

『左伝』は我が国江戸時代に盛んに読まれた書物である。本年のプロジェクトでは、『左伝』に関する版本の画像を整理した。

(4) 東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース（☆・※）

冊子体『漢籍目録』に収録されていない本研究所現蔵漢籍の書誌事項を審訂し、データベース化する作業を継続中。過去に閲覧用に作られたカードに対して、原本調査による詳細な審訂を加え、書誌項目を整えて、内容分類の上で年代順に配次する基礎作業と、一件につき二十近い欄位に分けて電算入力した情報を更に校正する作業が主である。また、より直接的な版本同定を可能にするための書影の配備を進めた。

(5) 中国近現代文学関係雑誌記事データベース（☆・※）

本プロジェクトは科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を受けて進行しているものであるが、中国近現代文学の文献情報（当面は近20年の主要研究誌の記事を対象とする）について、標題・著者・掲載紙名・刊行年月・ページ・付記・検索のための読音などを収録して、中国漢字（GBコード）とアスキー文字によるデータベースを作成している。

平成13年度は計画の3年目に当たるが、年度末までに新入力6,000件（テキストファイルで0.9MB）を含めて、総計21,000件（テキストファイルで3.1MB）の計画量を順調に達成する進行状況にある。

(6) ヒンドゥー儀礼研究基礎資料作製データベース

ため池設置儀礼、死の予兆、タントラ儀礼一般、農耕儀礼及び占術儀礼を中心

に基礎資料を入力。57、617行、8、108、126バイトのデータベースとなる。研究協力者などを中心に活用してもらっている。

(7) ミティラー地方の低カーストの儀礼の歌

前年に続き、韻文の形式で語られる農事諺の出版されたテキストの収集を行う。ミティラー地方のみならず、北インド、南インドの農事諺にも広げて収集を継続している。時間の都合で、まだ入力は行われていない。

(8) 国内所蔵南アジア関係写本のデジタル化に向けて

東京大学総合図書館所蔵の南アジア関係写本のデジタル化の実現に向けて、研究者の体制作りと総合図書館との非公式の交渉を行っている。希望的には、平成14年度から、実際の作業を開始したい。

(9) 歴史都市イスファハーンに関する総合的データベース

1923/24年に作成された地図上の地名や建物名を入力する作業は、ほぼ終了した。また、1950年代に撮影された航空写真のデータベース化も終了した。目下、これらデータの効果的な公開方法について考慮中である。

(10) 17世紀ヨーロッパ人によるペルシア旅行記のテキストデータベース

シャルダン旅行記のデータベース化を引き続き行った。本年度で全てのテキストのデータ化が終了するはずだったが、諸般の事情で作業にやや遅れが出、未だ50-60パーセントの段階にとどまっている。来年度は担当者が在外研究で不在のため、再来年度以後、あらためて作業を再開する予定である。

(11) 戦後日本政治・外交データベース (☆・※)

日本の内政・外交ならびに国際関係に関する重要な政治文書(国会内外の演説、条約、共同宣言など)の全文テキストを収録するデータベースである。科学研究費補助金の研究成果公開促進費(データベース)で構築にあたり、平成14年3月末現在で、約2000件の文書の全文テキストが公開されている。これらすべての文書について全文検索プログラムが利用できる。「データベース『世界と日本』」(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>)の一部を構成する。

(12) データベース20世紀年表 (☆)

20世紀の全期間における日本および世界の重要な出来事を網羅的に収録する、インターネット上でも最大規模の年表データベースである。平成12年度までは、科学研究費補助金の研究成果公開促進費(データベース)でデータベース構築が行われた。

その後の拡充の結果、平成14年3月末現在、1900年から1999年をカバーし、データ項目は、総計で18万4089件となった。「データベース『世界と日本』」(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>)の一部を構成する。

3. 公開・発信

(a) データベース公開

「インド・イスラーム史跡資料データベース」はウェブ上で公開中であるが、今年度から英語版も公開する。なおその他のデータベース・プロジェクトのうち、公開済のものには上記項目2のリストに☆印を付した。

(b) アジア・デジタル展示館

昨年度「東洋文化研究所所蔵古籍線装書」を開設し、貴重書の一部を一般公開しているが、今年度は画像資料を追加した。今後も随時増補していく。また、既出の「インド・イスラーム史跡資料データベース」はここにおいて公開中である。

(c) 出版

東洋学研究情報センター叢刊第1輯『東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』の発行。

ニューズレター『明日の東洋学』第6～7号を刊行した。さらに第1～7号のPDFファイルをウェブ上で配布している。

(d) 漢籍整理長期研修

平成13年度は6月25日～10月5日に実施し、6名が受講した（日程及び受講者名簿は12～13頁を参照されたい）。また、昨年同様漢籍のみならず朝鮮・南アジア・西アジアの文献に関する講義も行った。

平成13年度から、この研修の一部を人文社会系研究科文化資源学専攻の授業として扱い、院生6名が受講した。

(e) 研究交流会

平成14年1月15日に、京都大学人文科学研究所および国立民族学博物館から8名の研究者の参加を得て「中国と周縁」をテーマに、研究交流会を行った。

(f) 平成13年度全国文献・情報センター人文社会科学学術情報セミナー

本年度は東京大学法学部附属外国法文献センターが当番校で、「人文社会情報とIT」をテーマとして、11月19日～20日に総合図書館で開かれた。本センターは「IT活用のフロンティア」のセッションに参加した。

4. 平成13年度全国文献・情報センター長会議

今年度は神戸大学経済経営研究所附属経営分析文献センターが当番校で、2月8日（金）に神戸大学で開催された。

C 来年度

平成14年度もアジアに関するデータベースの構築と、そのインターネット公開を中心に事業を進める計画である。データベース・プロジェクトは、造形資料については、「中国絵画デジタル・アーカイヴ」と「イスラーム地域造形資料データベース化」、文献資料については、「在外企業作成資料のデータベース化」、「倉石文庫漢籍のデータベース作成」、「東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース」、「東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化」及び「イスラーム地域文献資料データベース構築」を軸に推進する。完成したデータベースは順次ウェブ上で公開してゆく予定である。

また平成13年度から開始した東洋文化研究所所蔵の貴重書のデジタル画像化とウェブ上での公開をさらに推進する。刊行物も、『明日の東洋学』と同様に公開することを検討する。

データベース、貴重書の画像ファイル、刊行物をデジタル化したファイル、アジア・デジタル展示館を結合させ、造形・文献両資料にまたがる「デジタル・アーカイヴ」に発展させる構想に基づき、センターのホームページを一新する。

資料の収集・蓄積については、イスラーム美術資料と新聞の収集を継続する予定である。

センターの課題としては競争的経費の獲得がある。積極的な事業展開を行うにはセンター校費では不十分なので、データベース化事業やアジアにおける資料調査のための科研費などの申請を続けるつもりである。

センターの将来計画としては、旧センター時代の東アジアを中心とした資料蓄積の遺産を継承しつつ、さらに西アジア、東南アジア、南アジアをも含んだアジア全域にわたる造形・文献資料の収集・蓄積、データベース化を進める必要がある。このような資料蓄積に対応しよう、既に狭隘化しているセンターのスペースを拡大することは緊急の課題である。さらに、研究方法や資料公開の方法の類似している東大内外の機関との間で、共同でできるプロジェクトを企画し、その実施を図ることも重要な課題となっている。

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

東洋学研究情報センター叢刊

第1輯 東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002.

東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和41年度）1968.
第2輯 清代地方劇資料集（一）1968.
第3輯 清代地方劇資料集（二）1968.
第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969.
第5輯 郁達夫資料 1969.
第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録（昭和42・43年度）1970.
第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（上）1970.
第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（中）1970.
第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇（下）1970.
第10輯 李大-x文献目録 1970.
第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970.
第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970.
第13輯 魯迅全集注釈索引 1971.
第14輯 1930年代中国文芸雑誌（一）1971.
第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（1）1972.
第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（2）1972.
第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇（3）1972.
第18輯 郁達夫資料補篇（上）1973.
第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973.
第20輯 目録学 1973.
第21輯 花間集索引 1974.
第22輯 郁達夫資料補篇（下）1974.
第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（一）1975.
第24輯 江西蘇区文学運動資料集 1976.
第25輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（二）1976.
第26輯 民国以来人名字号別名索引 1977.
第27輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目（一）1978.
第28輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集（三）1978.

- 第29輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978.
- 第30輯 仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集(四) 1979.
- 第31輯 儀礼疏攷正(上) 1979.
- 第32輯 儀礼疏攷正(下) 1979.
- 第33輯 仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集(五) 1980.
- 第34輯 小説月報(1920-1930)総目録 1980.
- 第35輯 コミンテルン定期刊行物 中国関係論説・記事索引 1981.
- 第36輯 魯迅文言語彙索引 1981.
- 第37輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(二) 1981.
- 第38輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(三) 1982.
- 第39輯 仁井田陸博士輯 北京工商ギルド資料集(六) 1983.
- 第40輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(上) 1983.
- 第41輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(四) 1983.
- 第42輯 校合本 大越史記全書(上) 1984.
- 第43輯 『植民地雑誌』(Koloniaal Tijdschrift)所収論文目録 1984.
- 第44輯 校合本 大越史記全書(中) 1985.
- 第45輯 江西蘇区紅色戯劇資料集 1985.
- 第46輯 宋之問詩索引 1985.
- 第47輯 校合本 大越史記全書(下) 1986.
- 第48輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説(下) 1986.
- 第49輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録(上) 1987.
- 第50輯 沈^イ期詩索引 1987.
- 第51輯 中華人民共和國・朝鮮民主主義人民共和國 職官歴任表 1987.
- 第52輯 韓国政治エリート研究資料 -職位と略歴- 1987.
- 第53輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(五) 1988.
- 第54輯 許舒博士所輯 広東宗族契拋彙録(下) 1988.
- 第55輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 -六朝隋唐宗教・思想資料- 1988.
- 第56輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(六) 1988.
- 第57輯 郁達夫資料総目録附年譜(上) 1989.
- 第58輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(七) 1989.
- 第59輯 郁達夫資料総目録附年譜(下) 1990.
- 第60輯 山西票号資料 書簡篇(一) 1990.
- 第61輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(八) 1990.
- 第62輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目(九) 1991.

- 第63輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目録載雜誌名索引
合併 四角號碼檢字表 1975.
1992.
- 第64輯 許壽裳日記（自1940年8月1日至1948年2月18日）1993.
- 第65輯 許舒博士所藏商業及土地契約文書 乾泰隆文書（1）1995.
- 別輯1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録（書名・人名索引）
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録（書名・人名通檢）
- 別輯2 海外所在中国絵画目録（アメリカ・カナダ編）1977.
- 別輯3 海外所在中国絵画目録（東南アジア・ヨーロッパ編）1981.
- 別輯4 日本所在中国絵画目録（寺院編）1982.
- 別輯5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982.
- 別輯6 日本所在中国絵画目録（博物館編）1982.
- 別輯7 日本所在中国絵画目録（個人蒐集編）1983.
- 別輯8 中国經濟關係雜誌記事総目録（一）－『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月刊』－ 1983.
- 別輯9 孟郊詩索引（上）1984.
- 別輯10 孟郊詩索引（下）1984.
- 別輯11 中国經濟關係雜誌記事総目録（二）－『國際貿易導報』－ 1985.
- 別輯12 中国經濟關係雜誌記事総目録（三）－『中行月刊』－ 1985.
- 別輯13 『内務行政雜誌』所收論文・記事目録（A Catalogue of the Articles in Tijdschrift voor het Binnenlandsch Bestuur）1985.
- 別輯14 中国經濟關係雜誌記事総目録（四）－『銀行週報』（上）－ 1987.
- 別輯15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覽－山西省出土文字資料－ 1988.
- 別輯16 中国經濟關係雜誌記事総目録（五）－『銀行週報』（下）－ 1989.
- 別輯17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（ヨーロッパ編）1992.
- 別輯18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 上 本文編）1994.
- 別輯19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（アメリカ・カナダ編 下 索引編）1994.
- 別輯20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995.
- 別輯21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版（東アジア編）1997.
- 別輯22 日本所在中国絵画目録 続編 1998.
- 別輯23 天津史文献目録 1998.
- 別輯24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999.

大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成13年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師					
日程	課目	9:00~13:00		講師	備考
		12:00	17:00		
6月25日(月)	開講式 オリエンテーション			原 洋之介 (東洋学研究情報センター長) 中里成章 (東洋学研究情報センター主任)	
6月25日(月)	漢籍目録法入門	講義	講義	大木 康 (東洋文化研究所助教授)	大学院人文社会系研究科 文化資源学専攻文書学専門分野の 授業を兼ねる
6月26日(火)	史部書について 四角號碼検字法	講義	講義	平勢 隆 郎 (東洋文化研究所教授)	
6月27日(水)	集部書について	講義	講義	大塚 秀 高 (埼玉大学教授)	
6月28日(木)	子部書について	講義	講義	宇佐美 文 理 (京都大学助教授)	
6月29日(金)	経部書について	講義	講義	小島 毅 (東京大学助教授)	
7月2日(月) ~5日(木)	漢籍目録整理法(1) および演習	講義	実習	大木 康 (東洋文化研究所助教授) 橋本 秀美 (東洋文化研究所助教授)	
7月6日(金)	ハングル入門	講義	講義	宮 冨 博 史 (東洋学研究情報センター教授)	
7月9日(月) ~9月24日(月)	所属図書館所蔵 漢籍整理及び研究	自習	自習		
9月25日(火) ~26日(水)	漢籍目録整理法(2) および演習	講義	実習	丘 山 新 (東洋文化研究所教授) 大木 康 (東洋文化研究所助教授) 橋本 秀美 (東洋文化研究所助教授)	
9月27日(木)	東洋文庫について	講義	講義	中 善 寺 慎 (東洋文庫司書)	東洋文庫見学を含む
9月28日(金)	和刻本について	講義	講義	長 澤 孝 三 (国立公文書館公文書研究官)	内閣文庫見学を含む
10月1日(月)	南アジア文献学概説	講義		永ノ尾 信 悟 (東洋文化研究所教授) 高 橋 孝 信 (東京大学教授)	
10月1日(月)	西アジア文献学概説		講義	鎌 田 繁 (東洋文化研究所教授) 鈴 木 董 (東洋文化研究所教授)	
10月2日(火)	漢籍補修法	講義	講義	横 山 謙 次 (宮内庁書陵部修補師長) 安 藤 清 (宮内庁書陵部)	
10月3日(水)	新学書について	講義	講義	高見澤 磨 (東洋文化研究所助教授)	
10月4日(木)	朝鮮本について	講義	講義	藤 本 幸 夫 (富山大学教授)	
10月5日(金)	漢字の字形の変遷	講義	講義	持 井 康 孝 (金沢大学教授)	
10月5日(金)	修了式			原 洋之介 中里成章	

*都合により課目・講師等を変更することがあります。

平成13年度漢籍整理長期研修研修員名簿

所 属 図 書 館	氏 名
東京大学附属図書館	こやま けんじ 小 山 憲 司
東京大学文学部図書室	わらや みえこ 藁 谷 美枝子
東京大学東洋文化研究所図書室	おおかわ なおこ 大 川 直 子
国学院大学図書館	はせがわ たかひこ 長谷川 孝 彦
慶応義塾大学三田メディアセンター	つつい としこ 筒 井 利 子
愛知淑徳大学図書館	かとう ふみこ 加 藤 史 子

受入新聞一覧

紙名	発行地	所蔵
【日本語】		
中国通信	東京	1950. 10～
朝鮮通信	東京	1963. 4～
【中国語】		
湖南農村報	長沙	1988. 11～
上海経済報（上海工業新聞より改題）	上海	1985. 2～
中央日報	台北	1954. 11～
中国文物報	北京	1988. 1～
中国専利報	北京	1989. 7～
明報	香港	1978. 12～
【韓国語】		
東亜日報（日本版）	東京	1982. 11～

閱 覧 統 計

閱 覧 者 () 内外国人内数					
区分 年度	学内		学外		計
	学 生	教職員等	学 生	教職員等	
H9	1724(592)	310(107)	1706(599)	1005(216)	4745(1454)
H10	2339(720)	465(208)	1779(280)	1366(201)	5949(1409)
H11	2296(658)	352(146)	1595(229)	1434(227)	5617(1254)
H12	1873(435)	465(221)	1121(118)	948(125)	4407(899)
H13	1975(424)	563(279)	1186(111)	963(159)	5946(973)

利 用 冊 数		
	図 書	雑 誌
H9	17901	8011
H10	27749	8545
H11	34822	10423
H12	17293	9490
H13	30917	11576

複写件数 (電子複写)		
	学 内	学 外
H9	1364	1652
H10	1564	1768
H11	1571	1745
H12	1689	1463
H13	1736	1503

開館日数	
H9	224
H10	234
H11	235
H12	238
H13	235

平成13年度東洋学研究情報センター 決算

予算及び決算

(単位：千円)

予算科目	当初予算	追加配分	決算額	備考
(目) 諸謝金	771	0	771	
(目) 員等旅費	777	0	777	
(目) 職員旅費	1,740	0	1,740	
(目) 校費	15,081	0	15,081	
計	18,369	0	18,369	

決算額内訳

(単位：千円)

予算科目	内訳	決算額	備考
(目) 諸謝金	漢籍整理講習会講師謝金 7名	409	
	ニューズレター原稿料 1名	31	
	データベース入力謝金 1名	114	
	特別講演謝金・翻訳謝金 2名	217	
(目) 員等旅費	漢籍整理講習会講師旅費 4名	162	
	研究会等 9名	615	
(目) 職員旅費	5センター関係	324	
	調査研究等	1,416	
(目) 校費	図書費	369	内訳は次ページ参照
	新聞費	693	
	貴重書デジタル化費用	71	
	備品費	314	
	印刷費	626	
	賃金	0	
	消耗品	742	
	会議費	14	
	複写費	35	
	センタープロジェクト費	12,217	
	計	15,081	

センター校費プロジェクト決算報告 (平成13年度)

件数	プロジェクト名称	担当教官	予算 (千円)	決算 (千円)
1	インド・イスラーム史跡資料データベース	中 里	3,200	3,209
2	東アジア族譜データベース	宮 嶋	3,200	3,261
3	中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト	板 倉	3,200	3,199
4	倉石文庫漢籍のデータベース作成	尾 崎	703	745
5	内蒙古出土学術資料のデータベース化	後 藤	972	861
6	在外日本企業作成資料のデータベース化	濱 下	1,200	942
計			12,475	12,217